



遠き日・遠き地に思いをよせて

色も香もなつかしきかな蛙鳴く 井手のわたりの山ぶきの花

この和歌をごぞんじでしょうか。

“蛙”や“山ぶき”と、本校や井手の地になじみある言葉が並んでいます。

そう、この和歌は井手ゆかりのあの“小野小町”の和歌です。

本校では、学部ごとに、年間十回近く『こまちサロン』という取組をお昼休みに実施しています。子どもたちは、地域で活躍されている読み聞かせや合唱などのサークル、音楽家協会など、様々な皆さまにお世話になって、素晴らしいひと時を過ごしています。まさしくこの『こまちサロン』の『こまち』が“小野小町”の名をいただいたものです。

そして、この写真です。

大の大人の胸に“やまぶー”と“どよーん”をつけて、握手している写真。(ちょっと風変わり?)

“どよーん”とは、本校の姉妹校、茨城県立土浦特別支援学校のキャラクターなのです。

この“どよーん”は「ツェッペリン伯号」という昭和の初め頃の世界最大の飛行船がモデルで、土浦・霞ヶ浦に立ち寄り、臨時列車も出て、たくさんの観衆が集まり、「君はツェッペリンを見たか!」という新聞の見出しが流行語にもなったそうです。

そう、“やまぶー”を胸にしてくださっているのが土浦特別支援学校の森校長先生です。4年ぶりで現地開催の全国の校長会があり、「せっかくですし、お目にかかりたいのですが」とお声掛けしましたところ、“やまぶー”と“どよーん”を作ってきてくださいました。本校からは高等部生徒の作業学習製品をプレゼントしました。

そして、なぜ、茨城県の土浦特別支援学校と姉妹校なのかというと、土浦市にも“小野小町”の跡があるので、土浦市では、二十回を超える「常陸国・小野小町文芸賞」も実施されています。

今回は、遠い昔、遠き地の一端を御紹介しました。

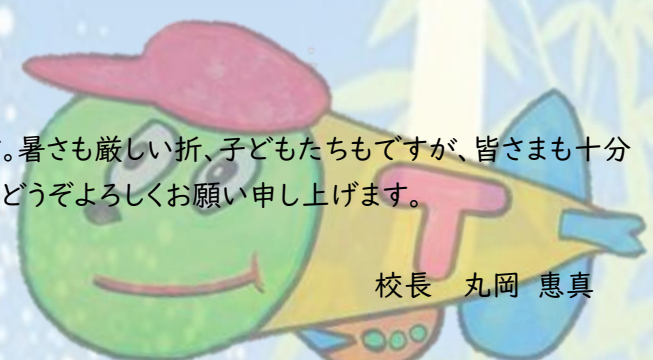
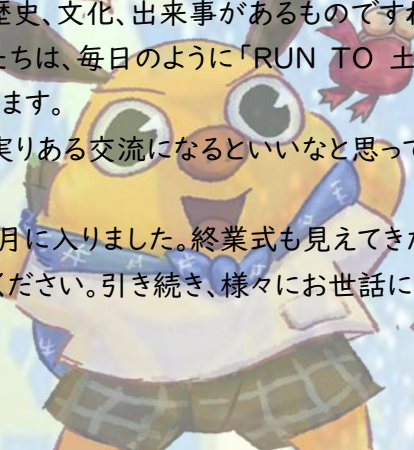
色々な歴史、文化、出来事があるものですね。

子どもたちは、毎日のように「RUN TO 土浦」ということで、540 km離れた土浦特別支援学校をめざして走りこんでいます。

今年も実りある交流になるといいなと思っています。

さあ、7月に入りました。終業式も見えてきたところです。暑さも厳しい折、子どもたちもですが、皆さまも十分に御自愛ください。引き続き、様々にお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

校長 丸岡 恵真



■小学部取組紹介■

6月9日(金)は、学校公開で『わくわくスポーツ祭』を実施し、たくさんの方に子ども達の頑張る姿を御覧いただきました。低学年は『サーキット』、中学年は『フライングディスク』、高学年は『白黒オセロ』と『風船バレー』、小学部全員で『玉入れ』と『小学部ダンス』に取り組みました。保護者のみなさまの温かな声援の中、子ども達はそれぞれの競技で、これまでの練習の成果を発表することができました。

また、5年生は会場の飾りづくりや当日のラジオ体操の見本、司会進行をするなど、高学年として学部のために活躍する姿がとても立派でした。今後の取組でも、高学年が中心となって活躍する機会がたくさんあるので、今後の活躍も随時お伝えしていきます。



■こまちサロンの紹介■

本校の教育理念である「地域と共に歩む学校」として、地域のすべての人と一体となって「共生社会」の実現や地域の振興を担う学校という意識を持ち、本校図書ラウンジを拠点として地域の方々と積極的に交流をしています。各学部9回、合計 27 回実施します。今年度は、井手町、宇治田原町、木津川市、京田辺市より12団体の方々が来てくださる予定です。朗読やわらべうた、リコーダー演奏、合唱、太極拳、太鼓演奏、スローエアロビックと多岐に渡る内容は、子どもたちにとって貴重な経験の機会であり、様々な学びや楽しみがあります。

〔児童生徒の感想〕

- 小学部 知っている曲がいっぱい楽しかった。また見たい。(リコーダー演奏:写真左)
- 中学部 大正琴の音色がとってもきれいでした。ふるさとの曲では、手話で歌詞を表現するのが、楽しかったです。(大正琴:写真中) 大きな絵本からたくさんの野菜が飛び出してきた、びっくりしました。引っっこ抜かれる前に野菜を答えられて嬉しかったです。(朗読)
- 高等部 大きく体を動かすことができ、気持ち良かったです。(太極拳) 篠笛という楽器を初めて見ました。とてもきれいな音でした。いろいろなお話を聞くことができ、楽しかったです。(楽器演奏:写真右)

